

令和 2 年度

事業所名 : グループホームシリウス奥州

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500030		
法人名	株式会社 シリウスケアサービス		
事業所名	グループホームシリウス奥州		
所在地	023-0065 岩手県奥州市水沢字水山4-1		
自己評価作成日	令和2年7月13日	評価結果市町村受理日	令和2年9月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○地域との共生 地域との交流や保育園との交流 ホームの行事、地域の行事、保育園の行事でお互いに参加、協力関係が出来てきている。消防訓練等へ地域住民に参加いただいているおり、ホームからは地域の文化祭や運動会に利用者様とともに参加している。民区の草取り等へ参加など協力関係が出来ている。 (新型コロナウイルス流行後は交流の大半は自粛している)</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

<p>事業所は、国道4号線から市街地に入る主要道路沿いにあり、中心市街地に近い地域に位置している。調査日時点で特養に移ったばかりの人がおり、8名の利用者になっている。介護度1、2の利用者が7人で、自立に向けた支援に力を入れている。遠隔地居住は1家族のみで、近くに暮らす家族が多いが、新型コロナウイルス感染予防のため面会制限を行っており、利用者は、家族のことを気に掛けるなど、落ち着かない様子が見られる時もあり、電話で家族との連絡を緊密に取るようにしている。朝夕の検温、手洗い・うがいの励行、生活備品の消毒等、事業所内の感染予防対策に万全を期すとともに、特に職員が感染症を持ち込まないよう、事業所外での私生活での自己管理を徹底することを職員間で確認し合っている。利用者が心身面で安定した日々を過ごしていけるよう、控えめにしている外出の工夫や地域との繋がりを保つための方策を話し合うなど、新型コロナ禍の中で、職員が一体となって介護サービスに取り組んでいる。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年7月30日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念等を事務所内に掲げ、常に確認出来る様にしている。	開設以来の事業所理念は、家庭的な雰囲気のもと利用者主体の生活を送ること、地域との交流を大切にすることなどを基本にしている。玄関や事務室に掲示し、職員間で共有している。昨年度、経営母体の法人が埼玉県に本社を置く会社にグループ化され、4月から交代した管理者は、改めて理念を具体的に実践するための取り組みの方針や目標を職員と話し合いたいとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事には、利用者、職員共に積極的に参加、交流している。地区子ども会の廃品回収行事に協力している。	地域との交流に力を入れており、自治会にも加入し、地域の清掃活動や子ども会の廃品回収に協力している。昨年度は地域の運動会や文化祭に参加し、地元の保育園の発表会にも招かれた。今年度は、コロナウイルスの関係で地域との交流は控えているが、近隣からの野菜の差し入れなどもあり、地域との繋がりを切らさずに良好な関係を維持している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居申請時や電話での相談に応じている。見学も随時受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の会議結果を会議録を職員に回覧し、その上で会議の内容についてスタッフ会議で話し合い、業務へ反映させている。	3月、5月は、市からの指導で運営状況を地区の民生委員、自治会役員、家族等の推進会議メンバーに送付し、意見をいただく方法で開催した。利用者の転倒が増えてきたことから、ヒヤリハット事例等を整理し、見守りの留意点を再確認するなど、利用者個々の状態に細心の注意を払いながら支援するよう助言を得た。次回からは、感染対策を講じながら何とか開催したいとしている。特定のテーマを設定し、関係のゲストを招いて話し合うことも検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長寿社会課担当者、地域包括支援センター職員に報告相談し、助言をいただいている。また市が実施する研修会等へ積極的に参加している。	市の長寿社会課からは、各種報告書の提出に際して丁寧な指導や助言を得ている。利用者に関する地域包括支援センターとの連携も円滑に行われている。市主催の全体指導会議や各種研修会に出席し、介護に関する知識や情報を収集している。	

令和 2 年度

事業所名 : グループホームシリウス奥州

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組み、ベッドからの転落の不安のある入居者には居室のドアを少し開けた状態とし、異変にすぐ気づけるようにしている。また、そういったリスクの高い利用者様をご家族同意の上で職員の目の届きやすい居室へご移動頂いたこともある。また、身体拘束に関する内部研修も実施している。	「身体拘束禁止適正化委員会」は、スタッフ全員で構成され、3ヵ月毎に開催し、法人共通の指針をもとに身体拘束やスピーチロックに繋がらない介護について確認している。年2回の研修会も開催している。現在対象になる利用者はいないが、ベッドから転落する心配のある利用者に対し、安全で事故の起きないよう目配り、気配りしながら介護支援に当たっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修(国内の虐待に関する報道記事等活用)や、職員同士情報交換を行い虐待防止に向けて、共通の意識を持ち虐待が見過ごされる事がないよう防止につとめている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去、対象の方が入居された時は職員含めて学習しているが、現在は職員全体での理解はすすんでいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規入居申請の時に概要を説明し、契約の際は重要事項説明書、契約書にて説明を行い理解、納得して頂くように努めている。契約内容への疑問があれば随時問い合わせ頂くよう合わせてお話している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会記録簿に記入欄を設けている。また来訪時や外部評価の「ご家族からのアンケート結果」からお話が出た案件は、職員会議や運営推進会議に報告し意見を聞き改善に繋げている。	現在、家族には面会を制限しており、電話で連絡や情報交換を行っている。意欲低下のある利用者には笑顔を届けたいとする家族には、他の利用者との接触を避けながら、裏の出入口を利用して面会してもらうなど、利用者個々の状況により柔軟に対応している。「面会記録簿」には、運営に関する意見等の記入は殆んど見られない。	家族の面会が制限される中、一般の広報に加え、利用者一人一人の1ヵ月の生活の様子を「お便り」として、毎月の請求書と一緒に送ることを復活させることが期待される。

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームシリウス奥州

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者は随時、職員からの意見や提案を聞くように努めている。	毎月のスタッフ会議(職員会議)で運営に関する意見等を確認しているが、職員は、日常的に気付いたことを積極的に管理者に話してくれる。職員から、利用者が午後ゆっくりと好きな時間を過ごすことが出来るよう、入浴時間を午前中に変更する提案があり、試行中である。また、職員の発案により、介護記録の様式を時系列に簡略化して記録出来るよう改善した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。(例:年次有給休暇を取得しやすい環境作り)「行動計画策定」をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じそれぞれの職員が研修の受講や勉強会に参加できるよう配慮している。また、資格取得(介護福祉士、介護支援専門員等)の推奨も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の定例会、勉強会、交換研修に交替で参加している。また、見学や研修等の受け入れも随時行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント段階で、要望等を把握し、出来るだけ本人が安心して暮らせる為の関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申請時、施設見学、家庭訪問の際に、ご家族の意向や悩み等を確認し関係づくりに努めている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームシリウス奥州

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを基に入居が妥当か検討している。入居判定基準として本人、家族状況を鑑み自宅での生活が困難と判断した場合となる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の掃除、洗濯物畳み、後片付け作業やリネン交換等の時は、できる範囲で参加していただいている。会話の機会を多くして、信頼関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の心身の状況を必要に応じてご家族にお伝えし、時には面会や通院の要請をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人からの電話の取次ぎや、面会に来られた際はゆっくり過ごせるよう場所をセッティングするなど配慮している。自宅に行ったり、家族と外出できるよう助言、支援をしている。	面会制限を行っているため、これまで来訪してくれていた友人、知人等の足が遠のいている。ドライブで自宅付近を訪ねたり、通院や買い物で知人に声をかけてもらっている。改めて馴染みの人や場所の発掘に努めたいとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性や状態変化に応じて、ホール等の談笑スペースの配置を変更する等、随時工夫している。また孤立する事が無いようにスタッフが声掛けをし、支えあうような支援につとめている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次の受け入れ先が決まるまで、相談、支援するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを把握し、ご家族の意向を確認して常に訴えを聞きながら対応している。	ホームの生活の中で出来ることを見つけ出し、役割を持ってもらえないかという視点から、本人の思いや意向を把握するよう工夫している。家族からも以前の生活習慣や趣味、特技等の情報を確認しながら、思いや意向の把握に努めている。整理することに興味を示す人に配膳、後片付けなど役割をお願いしたところ、積極的に行動するようになり、表情も明るくなった例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	聞き取り可能な部分の情報を収集し把握している。(一人暮らしの方が多く、曖昧な部分もある。)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、ケース記録や個別バイタル、食事、排泄記録簿に記載している。また、申し送り等で情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時や電話連絡、ケア会議時に話し合い、本人の状態に合わせた介護計画を作成している。	利用者毎に担当の職員を決めており、計画作成担当者は、担当者の記録をもとに毎月モニタリングを行いながら、利用者の心身の状況に即したケアプランになっているか、3か月毎に評価を行っている。プランを変更する際は、家族と話し合い、理解を得ている。家族からは、医療面の相談が多く、プランに病院や訪問診療の受診を加えることも多い。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画は基本的に3ヶ月毎、毎月のモニタリングで必要に応じ変更や対応方法の検討を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や検診等でご家族が対応困難なときや個人のニーズに対応した買い物等に対応している。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホームシリウス奥州

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員さんを毎回運営推進会議にお呼びし、地域行事への行事参加を呼び掛けていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じホームでの様子を文書で担当医に届けている。体調、薬、について疑問がある際は、医師、薬剤師に指示を仰いでいる。	ホームのかかりつけ医の他、皮膚科、歯科等、入居前からの専門医院に通院している人もおり、その場合は、家族同行をお願いし、ホームでの健康状態の資料を持参してもらっている。ホームのかかりつけ医は、近くの市営の総合病院にお願いしており、適時に適切な指示、指導を受けている。	現下の新型コロナを始めとする感染症対策や発熱等、利用者の健康管理に関する指導や助言が得られるよう、また医療機関への適切な受診に繋がるよう、訪問看護ステーションの活用等、看護師との連携体制を早急に確立することが望まれる。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護職との連携なし。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は何度か病室を見舞うようにし、また地域連携室や関係者と情報交換や関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応を説明して入居していただいている。現況、状態低下が著しい場合等はホーム利用は困難であることを説明し、他の施設への申し込みを勧めている。	重度化については、個浴への入浴が難しくなった時点で特養等、他施設利用の方向で相談させてもらうこと、また、看取りは、医療連携体制が確立していないことから原則行わないことを利用開始時に本人、家族に説明し理解を得ている。過去においては、結果として看取りを行ったケースがある。「急変時対応マニュアル」を作成し、職員間で確認するとともにAED講習会を受講するなど、利用者の体調急変に備えている。	

事業所名 : グループホームシリウス奥州

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフは交代で普通救命講習会を受講している。また急変時対応マニュアルを備え勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回は防災訓練を行っている。夜間職員独り体制を想定し、地域やご家族にも参加を頂き協力体制を築いている。停電に備え、反射ストーブやカセットコンロを備えている。また、食料品の備蓄も始めている。	消防署立会いのもと、春秋の2回火災避難訓練を実施している。運営推進会議の日程に合わせ、会議メンバーの他、家族、近隣の方々に見守り協力をいただいている。本年度は、新型コロナの影響で1回目の訓練をこれから行うこととしている。市役所のハザードマップでは、水害や土砂災害の指定地域に指定されていない。災害に備え、食料品を3日分備蓄しているほか、反射ストーブやカセットコンロなどを配備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る際の声掛けや、入浴、排泄時等には利用者一人ひとりのプライバシーを損ねないような声掛けや対応を心掛けている。(目での合図、言葉掛けの工夫)	利用者一人一人に敬意を払いながら、本人が嫌がることは押し付けないこと、他の人に聞こえるようなトイレ誘導は行わないことなど、本人の尊厳を守るケアを心がけている。日常生活で出来ることを役割として持ってもらい、職員からは「ありがとう」と感謝の言葉がけを行っている。居室内のケアに当たっては、本人のプライバシー空間であることに留意しながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から希望を聞くように努めている。また希望の訴え、自己決定を促し実現できるよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの思いを大事にしたい。しかし重度化に伴い個々の希望に十分に添いきれない場合もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好みの身だしなみを整えられるように話を聞きながら支援している。約2ヶ月に一度の出張理容では、本人の希望やご家族からの話を聞いて伝えている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームシリウス奥州

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好を把握し本人の咀嚼力に対応した物を提供している。食器拭き等出来る部分での作業と一緒にやっている。	3日分の献立表を夜勤職員が作成し、朝食は夜勤職員、昼食と夕食は日勤職員が交代で調理している。以前は利用者も同行していたが、現在は職員のみで2日分の買い出しを行っている。土用の丑の日には、うな丼を用意するなど、季節に合わせたメニューを工夫している。また、誕生日には、花を飾り、ケーキやノンアルコールビールでお祝いする。常時ミキサー食の方が1名いる。3テーブルで職員も一緒に和気あいあいと食事を楽しんでいる。ホテルマンのキャリアを持つ利用者が配膳や食器拭きを率先して行い、他の人も出来ることを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の嗜好に合せ、メニュー変更や適正な量に配慮し提供をしている。それを踏まえ、配膳時に分かり易いよう台所へ禁忌の食品含めて一覧で掲示している。咀嚼、飲み込み等の機能低下が見られる方にはミキサー食、刻み食で対応し、摂取量や水分量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアへの声掛けを行い一人ひとりに合った口腔内の清潔保持に努めている。歯科受診等も勧めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状態に合わせた支援の方法を話し合いし自立に向けた取り組みをしている。(排泄のサインを見逃さない誘導。夜間のトイレ誘導。ポータブルトイレの設置。尿とりパット、オムツの勉強会開催等)	利用者の大半はリハビリパンツにパットを利用している。日中は排泄サインを職員で共有しながらトイレに誘導し、自力での排泄が出来るよう本人に合わせた介助を行っている。夜間は、ポータブル利用者は2人、自分でトイレに立つ人が4人、トイレ誘導が2人となっているが、睡眠が十分とれるよう留意しながら介助支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無をチェック表や個々に聞き出し対応している。水分補給をこまめにする、掃除等生活の中で動く機会を作る、主治医の指示を踏まえて下剤服用のタイミングを工夫するなど、ホーム全体で取り組んでいる。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホームシリウス奥州

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	二日おきに入浴出来るように計画している。又、個人の要望に応えるようつとめている。(入浴の順番、お湯の温度等)	週に3回の入浴を基本に、その日の本人の気分や要望を大切にされた入浴支援を行っている。ほぼ1対1で、着脱を中心とした介助になっている。早めに入浴し、あとはゆったりと過ごしてもらうよう、午前中の中の入浴の適否について、試行しながら検討している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の就寝時間を把握した対応や、日中の居眠りからの夜間覚醒にならない程度の午睡に援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの薬の説明書を確認し服薬介助をしている。体調に変化が見られた場合は医師、家族と連携を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが出来る作業(掃除、洗濯畳み、草取り等)に支援している。買物やドライブ、レクリエーションなどや散歩等で気分転換ができるようにしている。状態低下の見られる入居者でも楽しめるように、パズル、塗り絵等を用意、使用して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力のもと、外出支援に努めるようにしているが利用者の希望通りには行かない場合もある。	コロナ感染防止のため利用者の日常の外出は以前より減少しており、事業所の駐車場や周辺を散歩するなど、外の空気を吸う時間を多く取るよう努めている。自家用車でのドライブでは、車外には出ないようにし、風景を楽しんでもらっている。現在、一緒に外出し、食事をしたいと希望する家族があり、感染予防の観点から、状況を見ながら慎重に判断させてもらうこととしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則立替払いであり、現在個人で金銭を所持されている方はいらっしゃらない。(極少額自室で所持されてる方のみ)		

令和 2 年度

事業所名 : グループホームシリウス奥州

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、友人への手紙の代筆、投函、電話の取次ぎや本人からの「電話を掛けたい」という希望に応じ電話を繋ぎ、ゆっくり話す環境を作っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナ渦を受けた面会制限初期は、ご家族に積極的に電話をおつなぎする旨をお手紙で差し上げている。	天窓から陽光が差し込む明るいリビングから左右に繋がる廊下を、それぞれ「さくら通り」、「ひまわり通り」と親しみを込めて呼んでいる。床暖房、エアコンで冬季、夏季とも快適な温度管理を行っている。キッチン前に大型の日めくりカレンダーや献立表が貼られ、季節に合わせた造花も飾られている。利用者は、3卓のテーブルとソファで自分のペースでゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール、東ホールの椅子、ソファの配置を工夫しており、気の合う方同士で談笑頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	筆筒、テレビ等馴染みの物や思い出の品やご家族の写真が置かれている。	利用者の居室には、椅子、小筆筒などが設置されているが、私服をかけるブテックハンガーや衣装ケースをロッカー代わりにし、衣類を整理している。ベッドは利用者負担のレンタルになっている。仏壇やテレビを持ち込んでいる人もいる。職員と家族で夏物・冬物の衣類交換を行う。居室の清掃は職員が行っているが、2人の利用者は自らモップをもって掃除しており、各居室とも清潔で居心地のよい個室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の自立した生活が支援できるように手すりを設置し、トイレや浴室、部屋の入り口等には、大きく見やすい表示をしている。		